



第 15 号 平成 29 年 9 月  
 発行 番町小学校同窓会  
 〒 102-0085 千代田区六番町 8  
 東京都千代田区立番町小学校内  
 TEL 080-3012-1001 FAX (03)3263-3731  
 郵便振替口座 00160-7-352085  
 編集 番町小学校同窓会事務局  
 印刷 株式会社 精興社

会員の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は、同窓会にご支援ご協力いただき深く感謝申し上げます。

さて、会則第7条第1項により、学年幹事会を平成29年（2017）5月28日に開催致しました。当日は、執行部から提出された「執行部の選任、会計監査の委任」を学年幹事諸氏に審議、承認いただき、同時に執行理事を互選していただきましたので、下記に掲載致します。（なお、昨年度の「決算報告」、今年度の「事業計画」案および「予算」案は、送付案内の裏面に掲載されています。）

### 2017～2022 執行部名簿

- |                |                  |            |                  |
|----------------|------------------|------------|------------------|
| <b>会 長</b>     | 豊島 快兒 (昭和 41 年度) |            |                  |
| <b>副会長</b>     | 井上 智雄 (昭和 25 年度) | <b>副会長</b> | 市原 俊一 (昭和 49 年度) |
| ”              | 西岡 芳文 (昭和 44 年度) | ”          | 竹川 勝治 (昭和 49 年度) |
| ”              | 津田真知子 (昭和 46 年度) |            |                  |
| <b>事務局長</b>    | 片岡 勝吾 (昭和 45 年度) |            |                  |
| <b>事務局</b>     |                  |            |                  |
| <b>庶務</b>      | 中村久美子 (昭和 41 年度) | <b>庶務</b>  | 中村 香織 (平成 11 年度) |
| ”              | 荒井 宏 (昭和 47 年度)  | ”          | 渡 洋二郎 (昭和 35 年度) |
| ”              | 瀬谷 達郎 (昭和 47 年度) | <b>経理</b>  | 庄司 麻美 (昭和 49 年度) |
| ”              | 田口 敬子 (昭和 54 年度) | ”          | 小澤 洋子 (昭和 49 年度) |
| ”              | 遠藤 努 (昭和 58 年度)  | ”          | 吉田 薫 (昭和 49 年度)  |
| <b>執行理事</b>    |                  |            |                  |
| ”              | 三浦 清 (昭和 14 年度)  | ”          | 柳澤 徳久 (昭和 51 年度) |
| ”              | 井上 一規 (昭和 39 年度) | ”          | 大沼 英之 (昭和 54 年度) |
| <b>会計監査</b>    | 前川 和弘 (昭和 28 年度) |            |                  |
| ”              | 和田 一郎 (昭和 39 年度) |            |                  |
| <b>顧問</b>      |                  |            |                  |
| 前会長            | 岩瀬 裕全 (昭和 36 年度) | 前番町小学校校長   | 額賀 聡 先生          |
| 元会長            | 新井 巖 (昭和 30 年度)  | 元番町小学校校長   | 有馬 守一 先生         |
| 元会長            | 黒川 浩 (昭和 19 年度)  | 元番町小学校校長   | 星野 昌治 先生         |
| 創立 140 周年協賛会会長 |                  |            |                  |
|                | 草刈 隆郎 (昭和 26 年度) |            |                  |

会員の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃より、同窓会活動にご理解・ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

今年度、同窓会長に選任いただきました昭和41年（1966）度卒の豊島快兒です。若輩ではございますが、5年間、精一杯務めてまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。私ごとではありますが、番町小学校を卒業して今年でちょうど50年になり、これも何かのご縁と感じております。



## 《今期の方針》

同窓会が会員同士、或いは児童・保護者、学校、地域の方たちとの親睦を中心に活動することについては従来と変わりはありませんが、今期はさらに下記を重点課題として加えることと致しました。

### 1) 創立150周年の準備と記念式典の挙行

2021年12月4日、番町小学校は創立150周年を迎えます。大きな節目の年であり、今まで多くの先輩諸氏によって培われてきた「歴史と伝統」を継承し、さらに次の時代への橋頭堡となるように準備をして、記念日を迎えられるよう努力致します。

### 2) クラス会、同期会、同窓会会合の開催を広く呼びかけて、協力・援助をする

小学校時代、仲の良かったアイツ、あの子は今、何をしているだろうか？

クラス会、同期会の開催については、各卒業期でまちまちです。卒業後10年以上、或いは卒業してから1度も同期会やクラス会を開催していないという方たちもいます。そこで同窓会は、クラスメイトや同期生が一堂に会する機会を持てるよう協力致します。

### 3) 番町小学校が「末永く存続する為」に必要な基盤の強化と地道な活動を行う

番町小学校はその長い歴史の中で、戦争、住環境の変化、教育行政の変革などの紆余曲折や廃校の危機に晒されながらも、今日まで「歴史と伝統」を継承してきました。しかし、新井元会長は退任のご挨拶（会報第10号）の中で、以下のように書いています。『私たちは創立140周年において、その歴史と伝統を寿ぎました。

同窓生の一人として、私自身もこれらのことを誇らしく感じました。しかし、省みるにあの創立記念行事は、私たち関係者だけではなく、その周囲の多くの方々に見守られて挙行できたということを忘れてはなりません。私たちは、番町小学校の歴史の長さに頼り、徒に伝統校としての矜持のみを挙げ連ねることは厳に慎むべきであると存じます。多くの人たちに支えられている番町小学校の現在の姿を率直に見つめ、こうした伝統を維持するための不断の努力こそが、真の意味での伝統校の誇りとなるものではないでしょうか。』

このお考えをも踏まえながら、今後も幾多の困難に立ち向かえるよう、そして創立150周年を迎えた後も創立160周年、更には創立200周年を迎えられるよう、努力を続けてまいります。

以上を旨として、今後活動してまいります。会員の皆様には、同窓会を巡る状況をご理解いただき、なお一層のご支援ご協力を心からお願い申し上げます。最後になりますが、皆様のご健勝ご活躍を祈念して、就任の挨拶とさせていただきます。



創立150周年に向けて、記念事業等の話し合いをするため、準備会の開催を考えています。ご参加いただける方は、事務局までご連絡下さい。



# 退任のご挨拶

前同窓会会長 岩瀬 裕全

昨年度まで、同窓会会長を務めておりました岩瀬裕全です。平成24年（2012）の就任から5年が、瞬く間に過ぎてしまいました。その間には、昨年12月4日に創立145周年記念式、そして記念総会を開催することができました。これも偏に会員の皆様をはじめ、愛育会、学校ならびに地域の皆様の多大なるご支援の賜物であると深く感謝申し上げます。一方、番町が末永く存続するための施策は、殆ど検討も進まない内に任期を迎えてしまいました。この点を、会員の皆様には深くお詫び申し上げます。



さて、この5年間の実感を一言で表わせば、「番町もここまで来たか少子高齢化」です。私が番町在校中は、各学年5~6クラスで1クラス55~56人、全校で生徒が1,800人を超えていたのに対し、現在は各学年2クラス、1学年の合計は概ね50~60名、全校で400人にも満たない状況です。その規模は1/4から1/5に減り、まさに隔世の感です。また千代田区内で、お母さんたちが最も子どもを入れた区立小学校の筆頭が番町ではなくなっているという、気になる変化も生じているようです。

さらに現役の状態以上に落差を感じるのは、同窓会の支持層の変化です。熱烈な応援を下さった昭和前期の先輩方の参加が急速に少なくなる一方で、昭和40年代以降の卒業生の同窓会のイベントへの参加が思うように進んでいません。その中であって嬉しかったことは、番町子ども会やU-20、U-50、Home Coming Day等の地道な活動が、皆様方のご協力で着実に続けられたこと、また昭和40年代、50年代以降の卒業生の中からも、お手伝いをして下さる方が少しずつ増え始めたことです。

本年度、会長に就任された豊島さんは、学校、地域、行政等に広い繋がりを持たれていると同時に、先輩後輩に知己も多い頼りがいのある方です。現在の番町小学校は、歴史や過去の実績だけでは存在意義を確保できない状況ですが、会員の皆様の力を新会長に結集していただき、2021年の創立150周年の場で番町小学校の存在を盛大に示せるよう、そして、番町が末永く存続できるよう心より願っております。

## 同窓会の活動

### ☆番町子ども会

各町会を中心に愛育会・愛児会や学校、学校と縁の深い団体が参加して行われる「番町こども会」は、子どもたちにとっては夏の最後の“お祭”です。同窓会は毎年、「駄菓子」屋さんで参加しています。2~5点までの点数が書かれた手作りの木製ルーレットを回して、針が指した点数と同じ数の駄菓子がもらえるという非常にシンプルな仕組みですが、小さなお子さんでも楽しめます。



平成29年度は、9月9日（土）に開催されました。担当は講堂に集合し、愛育会のお父さんお母さんの手を借りて、大きな段ボール5~6個分の駄菓子を並べて開会を待ちます。

お天気にも恵まれ、開会と同時にブースには次々と子どもたちがやってきます。まだ机の上の駄菓子を覗くのもやっとという小さなお子さんが、一所懸命ルーレットを回したりお菓子を選んだりする様子はとても微笑ましく、また高学年の子どもたちが高い点数を出して盛り上がっていると、こちらも笑顔になります。

今年度の子ども会も、過去最高の参加者を記録したとのこと。終了後の反省会では、愛育会の役員さんの発案で3年前から設置された子供たちからのメッセージボードが披露されましたが、可愛らしい文字で書かれた感謝の言葉に、1日の疲れも癒されました。また、愛育会の皆さんにはお世話になり、有難うございました。

（庶務 中村久美子）

栄えある番町小学校に着任し、早いもので二学期を迎えました。

着任する以前は訪問した折、何気なく通り過ぎていた正面玄関。正面から見た校舎や両側に広がる庭の景色は、あらためて学校らしい景観と威厳を示していることに気が付きました。校長室にずらりと並ぶ、歴代校長先生方の写真。先代の額賀校長先生からは、校長職の何たるかを学びました。その前任の有馬先生は、先輩校長であると同時に、かつて私がまだ教育委員会の指導主事になりたての頃、新人担当でご指導いただいた大先輩。また、その前の星野先生には、私が武蔵野市教育委員会に勤務していた頃、市内の校長を務めておられ、よく校内研修の折にお声掛け下さり、一緒に学ばせていただきました。さらに前の青木先生には、都立教育研究所に派遣されていた頃、文京区教育委員会におられご縁がありお世話になりました。東京都内だけでも、公立小学校は約千三百校もありますので、ご縁の不思議さにあらためて驚きます。また、あまたの立派な先輩方の後を引き継ぐことに身が引き締まる思いです。



前任の九段小学校には7年間勤務しました。その間、算数、人権教育、道徳教育とほぼ毎年研究発表会を行っていました。併設する幼稚園の園長も兼務していましたので、幼稚園も同様でした。特に自尊感情の育成に心がけました。学力、体力の向上は、豊かな心の育成なくして在り得ません。教員が力を伸ばすことは、すべて子どもの成長につながることです。その考えは番町小に着任してからも変わるものではありません。これまで番町小には、毎年研究発表会にお邪魔していました。継続して「ビブリオ番町」というキーワードをもとに一致団結して発表会にあたる勢いに、負けてられないぞと、来るたびに気持ちを奮い立たせていました。陸上記録会やわんぱく相撲で目にした体操着、えんじ色の番町カラーは子どもたちの力強さとあわせ、なかなかの脅威でした。九段小学校では、校長の使用する机が東郷平八郎元帥のものだったり、元帥直筆の「奮励努力」の書が飾られていたりしました。文字通り奮励努力を期した毎日を過ごしました。ここ番町では、壁面に皇室の方々からの激励のお言葉の数々。よき伝統を守ろうとする校風。礼で始まり、礼で終わる入学式や始業式、月曜日の全校朝会。また、校歌にある「たえて忍びてくずおれず」「かぐわしき名を世に立てん」などが身が凜となる厳かさを覚えます。本校の校章、梅の花の花言葉として、忠実、気品、高潔、忍耐、不屈の精神などが挙げられます。また、別名「好文木」は、「晋の武帝が学問に励めば花が咲き、学問をやめると咲かなかった」という故事から「文を好む。学問を好む。」の意味があることなど、初めて知りました。

先人の業績を受け継ぐ意で「衣鉢を継ぐ」という表現があります。脈々と続く本校の伝統をしっかりと引き継ぎ、さらに発展させていかねばと意を新たにしております。同窓会の皆様、どうぞよろしくお願い致します。

## 同窓生訪問 第3回

### 愛育会会長を退任するにあたり 昭和54年度 大沼 英之

平成27年(2015)度から2年間、番町小学校愛育会会長を務めさせて頂き、この度任期満了に伴い退任致しました。

在任中は岩瀬前会長をはじめ同窓会の皆様、額賀前校長先生、教職員の皆様、地域の皆様、番町小学校に関わるすべての皆様から心温まる絶大なるご支援を賜り、生涯忘れることのない貴重な体験と楽しい思い出がたくさんできましたこと、心より厚く御礼申し上げます。

在任中の平成28年(2016)12月、輝かしい歴史と伝統を誇る番町小学校が、創立145周年を迎えられましたことは感慨無量です。明治・大正・昭和・平成と4つの時代の日本初等教育をリードしてきた145年でもあります。

周年行事では御来賓として皇族をお迎えし、来日される海外の国賓・公賓の方々をお迎えす

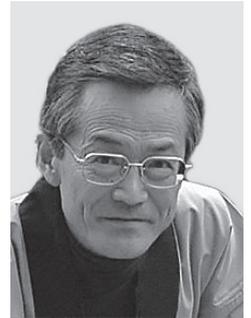


# 番町の気風 永遠に

前番町小学校長 額賀 聡

まずは、5年間にわたり、微力な校長を支え続けてくださった同窓会の皆様に謹んで厚く御礼を申し上げます。

在職時の思い出は数えきれぬほどありますが、何と云っても、毎年挙行してきた創立記念朝礼と創立145周年記念式が、深く心に刻まれています。特に、創立145周年記念式の挙行は校長としての最大の使命であると決意していた私にとって、実行委員長・竹川勝治様、前同窓会長・岩瀬裕全様、前愛育会長・大沼英之様をはじめ、地域の皆様、同窓会・愛育会の皆様からの全力を挙げてのご支援が、校長在職期間の最たる思い出となっています。同時に、記念式を成功裏に導いた自慢の子供たちと教職員は、私にとって一生涯の宝になりました。



創立145周年記念式を控えた週はじめの朝礼講話で、子供たちに、人の教えや言葉を常に心に銘記して忘れないことを表す「拳拳服膺」と、自然に才能が発揮されて大成する意の「囊中の錐」の言葉を示しました。そして、この二つの言葉を中心に記念式当日の式辞を編み、子供たちにとって価値ある節目となるよう願いました。『輝いて今日を』『われらがかざせる』『記念日の「歌」』の斉唱とともに、子供たちがドイツ語で歌い上げた『歓喜の歌』は、今でも脳裏に焼き付いています。併せて、式場を際立たせた教員手作りの壇上金屏風画や講堂階段装飾、式典までの歌唱・立ち居振る舞い指導、記念リーフレット「創立145年の気風を込めて」の作成等、子供たちの指導に一枚岩で臨んだ全職員との日々が、改めて懐かしく思い出されます。子供たちには、校歌と記念日の「歌」を純真に歌い継ぎ、脈々と息づく番町小学校に思いを致す記念式になったと確信しています。

記念式に1年生として参列した子供たちが6年生になった時、番町小学校は創立150周年を迎えます。公教育の歴史の中で燦然と輝く150年という伝統と品格を、確固たる信念のもとつないでいくことに貢献できたら幸いです。歴史をつなぐ私たちの志を、番町の魂として次のように捉えたいと今も変わらず考えています。「衆に媚びず、孤独を恐れず、自己の力によって自ら立ち、驕らず卑下せず、霜雪の寒にも自若として、揺るぎなき気魄である。」(記念リーフレット内で記した小説家・豊島与志雄氏による梅の花の姿)

創立145周年記念式及び記念事業に多大なるお力添えを賜りました番町小学校同窓会をはじめ関係各位に、改めまして深甚なる謝意を捧げます。そして、番町小学校同窓会の弥栄を祈念申し上げます。担任・教頭・副校長・校長として番町にて育てていただいた私はたいへん幸せでした。番町に深謝するとともに、今後のご恩返しを誓い擱筆いたします。



ることは、番町小学校の大切なお役目となっています。まさに日本を代表する小学校、それが番町小学校です。

145年を超える長い年月には関東大震災、番町・麴町地区も火の海となった1945年5月25日未明の山の手大空襲による校舎全焼、終戦直後の廃校危機、千代田区公共施設適正配置構想に伴う区立小学校の一律廃校、再編成による廃校など数々の困難がありました。それらを乗り越え、今の番町小学校がここに輝かしく存在します。それらの困難を乗り越えることができたのは、同窓生の皆様、先生方、地域の皆様、保護者の皆様の「血と汗と努力」の賜物であり、番町小学校が小学校に関わる全ての皆様に愛され、全ての皆様のプライド校であるからです。

2021年、東京オリンピック、パラリンピックが開催される翌年には創立150周年、2071年には200周年を迎えます。これからも良き伝統を継承し、さらに輝かしい番町小学校の歴史を築き上げ、ますますの飛躍と発展を遂げられますよう、番町小学校の同窓生のひとりとして心よりお祈りしております。

# 番町小学校とその周辺 ～江戸から明治へ～

新井巖（元同窓会会長 昭和30年度・六番町町会長）



有島武郎

番町小学校の直近には、〈その1〉で述べたように明治初期は谷干城、津田出、福羽美静、武者小路実世といった明治政府の高級官僚たちの住まいが立ち並んでいたが、その後も相変わらず官僚や実業家たちの屋敷が多かった。薩摩出身の財務官僚であった有島武は、大蔵大臣と衝突して官界から実業界に転じ、日本郵船や日本鉄道の役員として辣腕を振るった。明治29年（1896）になって、その彼が下六番町8～10番地（現在の六番町3番地）にあった3軒の旧旗本屋敷を買いとり、家族とともに移り住んできた。ここから、この地域がいわゆる「番町文人町」となる先

駆けといっても言い過ぎではないだろう。



里見弴

有島武は、元南部藩江戸留守居役であった山内家の幸子との間に5男2女をもうけており、その長男が有島武郎であり、次男壬生馬（後の有島生馬）、4男英夫（後の里見弴）が、有名なことから有島三兄弟という呼び方をされているが、実際には、そのほかに4人の兄弟がおり、それぞれ立派に活躍していることからこういった表現は適切ではないだろう。ちなみに有島生馬は、関東大震災がきっかけで組織された下六番町町の初代会長を務め、戦後は3男佐藤隆三氏が初代の六番町町の町会長を務められている。有島武郎もまた3人の子供をもうけ、子供たちを番町小学校に通わせた時には必ず武郎が付き添っていたと、後年、武郎

の3男神尾行三氏が語っている（『父有島武郎と私』）。この家には武者小路実篤をはじめ多くの白樺派の作家や画家たちが集まったという意味で、まさに「白樺」発祥の地でもあった。

この広大な屋敷の中で、それぞれの兄弟が住んでいたが、道路を隔てた下六番町11番地（現在の六番町5番地）に二軒長屋があり、その左側に越してきたのが泉鏡花であった。明治43年のことである。鏡花は金沢の出で、尾崎紅葉に師事し、すでに『婦系図』で流行作家となっていたが、この六番町の家からも、『夜叉ケ池』『日本橋』『天守物語』など



泉鏡花

今もしばしば上演される名作を生み出している。この長屋にも、久保田万太郎、小山内薫、谷崎潤一郎、佐藤春夫、小村雪岱、岡田三郎助など多くの作家や画家たちが集ってきた。

この鏡花に私淑し、万太郎の紹介でこの六番町の家を訪ねて以来、住まいまでこの六番町に移した作家が水上瀧太郎である。鏡花の妻の紹介で、まだ長屋門が残っていた立派な旧旗本屋敷（当時は下六番町29番地）に越してきた。現在は六番町2番地、セルバンテス文化センターのある場所である。水上瀧太郎は、明治生命の創始者の息子で、実業家としても作家としても活躍。彼は、永井荷風などが主宰していた「三田文学」のリーダーとして、自宅を月1回「水曜会」という集まりに解放した。ここにも久保田をはじめ、小島政二郎、西脇順三郎、井伏鱒二、小泉信三、小林一三など当時活躍した多くの作家や文化人たちが集ったのである。集ったと言えば、有島家は武郎の情死事件によってその広大な敷地を持てあまし、大正15年には、有島邸の一部を菊池寛が自宅兼文藝春秋社としたことがあった。そこに、直木賞で名を残す直木三十五をはじめとする文藝春秋の文士たちが出入りしたのである。ノーベル賞作家川端康成はのちに「何と云っても社の賑やかだったのは、有島邸時代であった」と述懐している。

まさに、この番町小学校周辺は文学の十字路であり、また文人たちの梁山泊でもあったのである。



有島生馬



武郎、行三、行光、敏行（大正9.6）



左：水上瀧太郎  
右：小泉信三

## 同窓会を支えた人々

西岡芳文（副会長 昭和44年度）

同窓生から「番町の同窓会はいつからあるのですか？」というご質問を受けることが、よくあります。創立145年をこえる校歴をもつ番町小学校のことですから、さぞかし整然とした同窓会の歴史が刻まれているだろうと思えるのですが、意外にもこれは難問です。

戦前の番町小学校では、創立50年の大正9年（1920）と、創立65年の昭和12年（1937）に充実した記念誌が発行されています。しかし、その本のどこを見ても同窓会に関する記述はなく、同窓会長のあいさつといった文章も収録されていません。わずかに『創立五十年誌』の寄付者名簿の中に「同窓会之部」として、「男子部」より「児童博物館設備……戸棚並標本類（見積価格金五百円也）」、「女子部」より「儀式用紫幕二張並医療戸棚一個（見積価格金七百円也）」が寄贈されたことを記してあるだけです。こうしてみると、会長や役員を揃えた同窓会の組織というものではなく、周年行事の実行委員の方々が、そのまま同窓会を兼ねていたのではないかと想像されます。お隣の永田町小学校が、昭和4年（1929）に同窓会を再興して『かがみ』という会誌を刊行しているのに比べると、規模の大きな番町小学校の方が、同窓会活動では出遅れているように見えます。

ちなみに創立50周年記念の時の記念祝賀会代表者は高嶋徳右衛門氏で、口絵の集合写真に写っている祝賀会委員は次の通りです。

“網野亀吉・荒川敬・三木染吉・山口濤太郎・竹花佐忠治・綱島藤吉・松本留吉・村上辰午郎・市川亀吉・渋谷吉五郎・中村藤吉・阿南當（ママ）一・大熊喜邦・高嶋徳右衛門・佐藤三吾・佐藤太三郎・深田與三兵衛・有嶋武郎・山路仙蔵・瀬戸川豊光”

高嶋徳右衛門氏は、たぶん実業家・易占家として知られる高嶋嘉右衛門の甥にあたる方と思われます。高木彬光氏によれば、二代目徳右衛門は、横浜の開発やガス事業で財をなした初代の事業を受け継ぎ、「紀尾井町の御前」と呼ばれ、志賀直哉の『多情仏心』のモデルともいわれたそうです。

（高木『大予言者の秘密』光文社、1979年刊）

また、65周年の時は大熊喜邦氏が祝賀後援会長となり、副会長に大橋誠一・阿南常一・三根谷実蔵、会計に市川亀吉・中村藤吉・牧野泉・宮本英治・白井泰治という名前があがっています。大熊喜邦氏は番町明治24年度卒、帝大建築科から大蔵省に入省、国会議事堂をはじめとする国家的建築事業に携わり、また建築史学者として江戸時代の建築や交通経済史について造詣の深かった人物です。

戦後の番町小学校の同窓会は、山地三平氏（昭和6年度卒）が長い間独力で支えてこられました。創立80周年記念式典に昭和天皇が来臨されて以来、10年ごとに皇族をお招きすることができたのも、太平洋海運のオーナーであった山地氏の卓越した人脈によるものでした。第14代校長 高杉新作先生の古稀を記念して刊行された『江戸更紗』という随筆集（1974年刊）に寄せられた山地同窓会会長（当時）の回想には、次のように書かれています。「又、先生は御在任中、番町の改革にも精力的に取り組まれましたが、その一つに従来番町では学校長が兼務して来た同窓会会長には、矢張り卒業生があたるべきであるという、お考えを打ち出され、偶々次男の卒業という時期にあたっておりました私が、卒業生として初めて同窓会の会長をお引受けする事となり、これ以後この卒業生による同窓会々長という先生のお考えは現在に至る迄守られ引継がれているのでございます。」

なお、山地さん以前に、同窓会総務として川島匡さん・八牧一宏さん（昭和22年以前）・福田安次さん（昭和22～24年）・市原正士さん（昭和25～28年）が就任され、実質的な同窓会長として、廃校の危機にあった終戦直後の番町の存続に尽くされています。



創立50年記念誌口絵の祝賀会委員集合写真



創立65周年祝賀後援会長  
大熊喜邦氏

## ～ 同期会・クラス会報告 ～

### 秋の集い

幹事 柳田知子（旧姓 阿部）

2016年11月13日、主婦会館プラザエフにて番町98会（昭和45年度卒）を行いました。

当日は岩上廣志先生（89歳）、島田稔先生（80歳）のご長寿を記念して、30分ずつの特別授業をしていただきました。岩上先生には「平和の尊さと人の縁の大切さ」を、島田先生には「健康に留意し、家族や友人の輪の中で充実して生きることの大切さ」を教えていただきました。同期生による篠笛、フルート、バイオリン、キーボードの演奏や歌唱などもあり、34名の楽しい会となりました。



次回は2018年、還暦同期会を予定しています。還暦に向けてそれぞれが最も自分らしい生き方を選んで、のびのびと力を発揮してくれることを願っています。

### 96期1組還暦記念クラス会

幹事 蔵田隆之



昭和43年度（1968）卒1組は、担任の飯島信一先生を囲むクラス会を先生在住の千葉県柏市で、年2回、春・秋に開催していました。しかし、2013年の先生ご逝去後は、幹事の入院などもあり、途絶えていました。そこで今回、『還暦』をきっかけに、3年ぶりのクラス会を企画しました。

1組は60名のクラスで、現在連絡先判明者は約30名。2016年11月20日、新宿「響」に10名が集まりました。出席者はミュージシャン、写真家、元教師、元客室乗務員、経営者、ゴルフ場勤務等々多彩な顔ぶれで、健康の話、子どもや孫の話、小学校当時の思い出と大いに話が弾みました。当日は還暦にちなみ“ドレスコード：赤”で、全員が赤い物を身につけました。一昨年、生死の境を彷徨った幹事から、余生では『クラス会終身幹事』を生き甲斐にする旨の決意表明も飛び出し、今後は出席者が増えることを期待しています。

### 久しぶりの竹馬会（昭和41年度（1966）卒2組）。今後の予定は……

幹事 碓 純吉

幹事からの突然のメールでの案内にも驚かず、参加表明が多くて有難い限りです。前回から2年ぶりのクラス会は2017年6月15日、毎度おなじみの赤坂クラブを会場に。急な仕事や所内でキャンセルがあり、当日、少し減りましたが、15名が出席しました。還暦を過ぎて早3年。そろそろ第一線をリタイアする年齢かもしれませんが、引退はまだまだ早いとばかりにヘッドハンティングされたり転職していたり。「誕生日がきたらリタイアだから、そうしたら暫く自分自身を見つめ直す時間を過ごしたい」と話すクラスメイトもいて、これからは若い頃とはひと味違うクラス会が開けそうです。



というわけで、次回は2017年11月30日（木）の開催と相なりました。都合で欠席だったクラスメイトの皆さん、今度はお会いしましょう。予定して下さい！

◎同窓会 U-50（仮称）（平成16年度～昭和52年度卒業の会員の方）

○日時：2017年11月23日（木・祝）17：30～ ○場所：メゾン・セルバンテス

※ 直前のご案内で恐縮ですが、詳細は同封のご案内をご覧ください。